

# 「持続可能な復興広報を考える検討会議」

～風評被害の払拭と風化対策を図るための情報発信の手法を考える～（第2回）

## 議事要旨

- 1 日時：令和4年10月17日（月） 16:45～18:37
- 2 場所：中央合同庁舎4号館4階第2特別会議室
- 3 出席者：秋葉復興大臣、  
五十嵐構成員、岡田構成員、河井構成員、佐久間構成員、  
殿村構成員、富永構成員、森下構成員、ほか関係府省庁

議事の概要：

### （1）構成員からのプレゼンテーション

3名の構成員より、「「知ってもらう、食べてもらう、来てもらう」ための広報の在り方」というテーマのもと、

- ・関係者全員が主体的に関わり、「共同作業」の意識を持つとともに、関係者間で認識や目的を共有する工夫を行い、意思疎通をよりスムーズにすることが肝要であること
- ・地域住民が自発的に町の魅力を語る、「地域発の広報」が不可欠であり、各地域が広報を行う際に必要となる広報技術や専門知識を得るための環境づくりを後押しが重要であること
- ・広報の受け手側が「これまでと違う」と認識する「型」をつくる必要があり、発信にあたっては、インバウンドを増やすなど世界からの注目を集めることで、転じて国内の関心を引き起こす工夫が要ること

などについての講演をいただいた。

## (2) 意見交換について

上記プレゼンテーションを踏まえ、各構成員より、

- ・復興広報のゴールに向かうまでの各段階における成功とは何か、対象は誰なのかということを具体化する必要がある
- ・政府全体としてゴールを設定し、常に軌道修正しながら復興広報の取組を継続することが重要である
- ・広報活動を行う当事者は必ずしも広報分野における専門知識を持ち合わせていないため、どこまで戦略的であるべきか、検討すべきである

等のコメントをいただいた。